

### ④秋良貞臣君彰功碑

秋良貞臣の功績  
 萩藩の重臣で、熊毛郡阿月（柳井市）の領主、家老・秋良貞温の子で、幼名を雄太郎といい、十一才で萩明倫館に入り、儒学、兵学を吉田松陰に学んだ。安政二年（一八五五）父に従って、江戸に行き国事に奔走した。四境戦の時は真武隊を組織し、その総督となり、阿月兵を率いて、慶応二年（一八六六）、大島郡に上陸して、幕府軍を撃破した。明治維新後は、特に製塩業の再興に全力をつくした。明治五年（一八七二）九月、山口県租税課専勤物産掛となり勸業につくし、県を辞した後は、十州塩業会社を設立し、防長塩田会社の長として、塩業に力をそそいだ。明治二十年（一八八七）ロシアのウラジオストクに渡り、食塩輸出の道を開いた。同三十八年（一九〇五）四月、六五才で没した。



吉田松陰に学び、維新後は製塩業の再興に全力をつくした秋良貞臣（あきよし さだおみ）の功績をたたえ、防長塩業組合が、明治四十一年八月廿八日に建立した。

碑文（漢文和訳）  
 君は防州の名士貞温君の男なり。天保十二年（一八四一）熊毛郡阿月の庄に生る。資性忠孝にして、清廉自ら処る。少壮にして父に随い国事に奔走す。維新後見る所ありて翻然（ほんぜん）として官を辞し、身を塩業に委（ゆだね）ぬ。而して身を勞じ思を焦（こ）がし、力を斯業（しぎよう）に尽すこと、三十年一日の如し。塩専売法の將（まさ）に行はれんとするや、君、病を扶（たす）けて東上し同志と幹旋尤（もつと）も晟（つと）む。偶々（たまたま）病革（あらたま）りて、帰養すること旬余、遂に起たず。時に明治三十八年（一九〇五）四月二十日なり。

### ⑤御鎮座一千三百年御式年祭記念碑 (昭和45年10月建立)



### ⑥社務所新築記念碑 (昭和56年10月建立)



### ⑦御鎮座一千二百五十年御式年祭記念碑 (大正9年5月1日建立)



### ⑧一千年祭 記念碑 (小鳥神社 勸請延喜元年(901)から一千年記念 明治33年8月建立)



### ⑨一千七拾五年祭記念碑 (小鳥神社 昭和31年9月建立)



### ⑩豊後石と薩摩石

この石は昔、豊後国（大分県）及び薩摩国（鹿児島県）から献上されたものといわれ、向つて右が豊後石、向つて左が薩摩石といわれている。昔から、この石の凹部にたまった水で、目を洗えば目の病気がなおり、また、イボが取れるといわれている。古い歌として（帰ろう）  
 豊後へのう（帰ろう）  
 薩摩へのう  
 豊後の山の火が見える。  
 昔はこの松原は波打ち際になりました。

（昭和時代にあった  
 この石の史跡案内板より）  
 出典古文書「地下上甲」

